



ゆう 加藤

日本総合研究所
リサーチ・コンサルティング部門
環境・エネルギー・資源戦略グループ
シニアコンサルタント

2024年5月に水素社会推進法が成立し、日本は脱炭素化に向けた水素社会の実現を目指して新たな一歩を踏み出すこととなった。政府は水素の普及を促進するため、価格差支援を含めた補助金制度の整備を進めている。東京都も独自でグリーン水素の補助支援を兼ねた取引市場を構築すべく取り組みしており、24年度中にトライアル取引の実施を予定している。東京都は検討にあたり、市場メカニズムを利用した水素の補助支援を先駆的に実施しているH2グローバルと提携して参考にしようとしている。

欧州ではH2グローバルに加えて、欧州水素銀行も水素補助支援のオークションを先行して実施しており、すでに補助支援に採択されている水素プロジェクトが存在する。今回のオークション結果を踏まえて、次回オークションの条件が検討・公表されている。国内の水素政策は、引き続き欧州の政策を参考に進められることが予測されるため、企業は欧州水素銀行とH2グローバルの取り組みを見ておくことが重要だ。

欧州水素銀行は、欧州域内でグリーン水素を生産するプロジェクトを補助する制度で、銀行という名称が付けられているわけではない。23年11月にはオークションの入札が行われ、欧州域内の7つのグリーン水素生産プロジェクトが採択されており、合計で年間15・8万トンのグリーン水素に対し、7億2千万円の補助が決定した。今回のオークションは24年12月に予定されており、予算は最大12億円で、そのうち2億円は海運セクター向けのプロジェクトに

割り当てられる予定だ。

H2グローバルは、欧州域外で生産されたグリーン水素を確保して需要家に提供するための制度で、供給事業者と需要家の双方に対しダブルオークションを行う。水素・アンモニアだけではなく、eメタノール（合成メタノール）やe-ISAFF（合成燃料）のような誘導品も支援対象となっている。23年12月に入札が行われたオークションでは、エジプトでグリーンアンモニアを供給するプロジェクトが採択され、最大3億9700万円の補助が予定されている。

一方で、e-ISAFFは契約が成立しないままオークションが終了した。今回のオークションに向け、ドイツ政府は35億3千万円の追加予算を示しており、オランダ政府も3億円の予算を提供することで合意している。また、H2グローバルはカナダやオーストラリアと2カ国間プログラムや協定を締結して、欧州域外での水素調達を加速させようとしている。

水素補助支援の最前線 欧州の先行事例が示す日本の次なる課題

これらの欧州における水素補助支援の取り組み状況を踏まえ、国内でファーストムーバーとして補助支援を行う案件が採択された後に、さらなる支援拡充に向けた検討が必要になってくるだろう。まずは、ファーストムーバーの補助だけでは十分ではない地域や産業（Hard-to-Abate産業）二酸化炭素排出削減が困難な産業が想定される）に対する追加支援である。次に、政府が掲げている水素供給目標量の確保や水素調達地域のバランスを図るために、水素供給国との連携強化である。

最後に、e-ISAFFなど実装のハードルが高い誘導品に対する支援の実施である。欧州だけでなく米国や中国でも水素に対する補助支援が進んでいる中で、企業は各国の動向を注視しながら実装に向けた時間軸を踏まえて、グローバル戦略を柔軟に軌道修正することが市場を獲得するためには不可欠となってくる。（今回は11月18日に掲載します）